

第53回ブレイクスルー研究会議事録

「加速する中国深圳発イノベーションの特徴～スピード、若さ、創新・創業～」

1. 日時：2018年4月16日（月）18時から19時50分
2. 場所：日本経済大学大学院
3. 参加者：22名+学生4名
4. 講師：鈴木浩特任教授（日本経済大学大学院／メタエンジニアリング研究所長）
高橋文行教授（日本経済大学大学院）
5. 内容：（要約）
 - 1) 概要紹介（主査：旭岡勸峻（(株) 社会インフラ研究センター）
 - ・先端技術や先端産業の急激な追い上げを行う中国で、「中国のシリコンバレー」として注目される深圳市の主要拠点の訪問とイノベーションの特徴を探るために、両教授に訪問頂いたので、報告してもらおう。
 - ・中国は「中国製造2025」（製造業を高度化するための行動計画）を策定し、成長産業（10分野）への投資を強化している。
 - * 深圳市は香港の新界と接し、経済特区に指定されている。北京市、上海市、広州市と共に、中国本土の4大都市と称される「北上広深」の一つであり、「一線都市」に分類されている。中国屈指の世界都市であり、金融センターとしても高い重要性を持つ。2010年の近郊を含む都市的地域の人口は1,447万人であり、世界第15位である。中国本土では北京市、上海市、広州市に次ぐ4位である。

また深圳市には政府主導で新興事業発展のためのインフラが整えられていることから、スタートアップ企業や製造工場が数多く存在する。

1400万都市となった今も、20～30代が人口の65%を占め、65歳以上の高齢者は全人口の2%しかいない。これだけ「長期間にわたって若者ばかりが住んでいる街」も、おそらく歴史上ないだろう。

深圳は、中国の政策が改革開放に転じた1980年代、当時の最高権力者、鄧小平の号令によりゼロから発展が始まった。そのときに深圳の改革を主導したのは、「銭がないなら権をくれ」という名言を党中央に対して主張した習仲勲、習近平の父である。
 - 2) 現地調査報告（鈴木教授）：
 - ①歴史：中国への窓口として経済的に発展していた香港と隣接する地理的重要性から1979年3月、宝安县を省轄市の深圳市に昇格させ、1980年には改革開放路線を採用した鄧小平の指示により深圳経済特区が指定されると急速に発展した。
 - ②特徴：経済特区という地の利を活かした中国の多くのハイテク企業の本社所在地としての役割にある。ファーウェイ、テンセント、BYD、ZTE、DJI、OnePlusなど、著名な中国企業が本社を構える。「新しい産業を創ることに特化」している。

また、中国第一の移民都市。1447万人 平均年齢32.5歳。

②訪問先：(深圳市南山区科学技術創新委員会による斡旋)

- ・インキュベーションセンター (Tech Code社) (9名)
 - ー地域のVCと連携、3年間で1360のインキュベーション、米国シリコンバレーと異なり、新しい産業育成を目指す。事業モデル/投資等の指導。
- ・HoldauroRA
 - ーARとMA開発。特許を押さえて事業する。ドイツと協業等。スタートアップは委員会(3500万元調達)
- ・テンセント本社
 - ー3000人。ビル内に大学。ウーチャット等、競争はアリババ。
- ・DJI
 - ー2006年設立、6000人従業員。ドローンの世界的企業。
- ・華強北(深圳の秋葉原)
 - ー分業体制のサプライチェーン整備。秋葉原との大きな違いは、ここがプロ向けの電子部品市場だということである。
- ・深圳大学
 - ー1983年設立。国立総合大学、学生数3万人。深圳には大学が2校。しかも1校は理系の大学なので、総合大学は深圳大学の1校しかない。
 - *美しいキャンパスでは5位に入っている深圳大学は、優秀大学ランキングではなんと第89位。残念ながら学力レベルではまあ並の大学

3) 企業分析とイノベーション考察(高橋教授)

①企業分析:

- ・ファーウェイ
 - ー北京のIT系に対して、深圳は、モノづくり系。スリーコムと連携。
 - 2017年生産工場を船橋市に。新設する施設は「工場」ではない。品質をさらに向上させるための「製造プロセス」をパートナー企業とともに研究するための「製造プロセス研究ラボ」である。
- ・BYD社
 - ーリチウム電池メーカー。内製化に切り替えコスト競争力。横展開のビジネスモデル。
- ・テンセント
 - ー1998年創業。独自性を発揮。ウーチャット8.9億人。ゲーム事業や広告料で収益。社内ベンチャーサポート。

②中国のイノベーション政策

- ・双創政策(中国ではイノベーションによる発展推進戦略「大衆創業・万衆創新(大衆による起業・万人によるイノベーション)」を拡大して、より高いレベル

に引き上げたいとしている。→国家全体がイノベーション推進、また自分の
V Bが一番優秀である等の勢い。

- ・インキュベーションシステム強化（共創空間／アイデアを迅速にものづくりへ）。国と民間が投資する仕組み
- ・中小企業（99.7%）30代の若手起業家
- ・技術力の向上と人材の流動性及び大学の世界ランク向上
- ・市場が大きく、アイデアと実装技術が結合しやすい。アイデア重視で、産業化が早い。
- ・若手を核にスピード感が異なる。

＊人材「千人計画」

－正式名称： 海外ハイレベル人材招致「千人計画」

実施部門： 「中央人材工作協調チーム」（中国共産党中央組織部）

開始時期： 2008年

対象：

- ・国籍問わず、原則上55歳以下、海外で博士号を取得している者。
- ・当選された者は毎年中国での研究活動は6ヶ月以上であること。

以下の諸条件のいずれに該当する者：

- ・海外の著名な高等教育機関、研究機関において教授またはそれに相当するポストに就いた者
- ・国際知名企業と金融機関において上級管理職を経験した経営管理人材及び専門技術人材
- ・自主知的財産権をもつ、またはコア技術を把握している；海外での起業経験を持ち、関連産業分野と国際標準を熟知する創業人材
- ・中国が至急に必要とするその他のハイレベルイノベーション創業人材

・総括

- ①サプライチェーンが充実
- ②事業創造環境の良さ
- ③社内ベンチャーが盛ん
- ④オープンイノベーション
- ⑤若い
- ⑥オリジナルには限定しない。

（文責：主査 旭岡叡峻）＊は検索説明